



福島市荒井地区から冠雪の吾妻小富士を眺める

## Bonne Année !

令和5年が皆様にとりまして良い年でありますように  
一般社団法人福島日仏協会 理事長 太田英晴

### 梅の香を心待ちに

今冬はラニーニャ現象で例年になく大雪や寒さに見舞われた地域が多い。1月20日に大寒入り、2月4日に立春を迎えるが、本格的な寒さと雪はこれからだ。とは言え、日ごとに太陽の日差しが強くなって日脚が伸び、待たれるのは花の便りである。桜前線は本格的な春の訪れを感じさせるが、それに先立つ梅の開花は春の先駆けで、寒気の中で凛と五弁の紅白の花を咲かせる風情は心を安らげてくれる。

今年は南の石垣島で1月4日に開花したが、四国の高松では昨年暮れの12月19日に平年より25日も早く開花、島根の松江でも1月5日に昨年より30日も早く花の香りを漂わせた。梅の開花の多くは2月から3月にかけてで、それが雪に見舞われる松江などで何故こんなに早く開花したのか分からないが、寒さの中で梅花の便りが届くのは心弾む。

梅で知られているのは水戸の偕楽園や東京の吉野梅郷、奈良の月ヶ瀬梅林などがある。県内にも福島の花見山、郡山の梅の里、いわき市の専称寺梅林がある。花見山は桜やロウバイなど多くの花木と共に梅も山を華やかに彩り市民や観光客の目を楽しませてくれる。郡山の梅の里は広大な耕地に実を収穫する「白加賀」など1万本を超す梅林が安達太良を背景に見事な花を咲かす。専称寺は山号が「梅福山」で、文字通り紅白梅に囲まれ梅の寺として有名だ。

梅はバラ科サクラ属の落葉高木で、原産地は中国。日本には弥生時代に朝鮮半島から入ってきたと考えられている。中国語でムメ、メイ、マイと発音するらしい。それが日本で転訛しウメとなった、との説がある。好文木(こうぶんぼく)、春告草(はるつけぐさ)、匂草(においぐさ)、香散見草(かざみぐさ)などの別名もある。学名は *Prunus mume*。フランスにも梅があり *prune* (梅とスモモの類)、*prunier* (梅の木)の語があり、実が女性、木が男性名詞なのは面白い。梅干しもあると言うので味はどうなのか興味がわく。

梅の実には6~7月頃に結実し梅干しや梅酒などに使われ、特に和歌山の南高梅の梅干しは有名だ。会津美里町

の高田梅もピンピン玉のような日本一大きな実で、果肉が多く種は小さく苦みがないとか。カリカリの実を甘切漬や塩切漬にしたカリカリの実を細かく刻みおにぎりにして食すと美味しいと評判だ。薬用としても青梅は利用され、皮を剥ぎ種子を取り除いて藁などで燻製にした「烏梅(うばい)」は健胃、整腸、強心作用などに、また煎じて飲むと風邪に効果があると言う。頭痛の時にこめかみ梅干しの果肉を貼ったりする民間療法もドラマの中で見掛ける事がある。

梅の栽培品種は約300あり、近縁のアンズ、スモモ交雑するので紛らわしい木も多い。我が家の庭にも60年程前に移植された梅と思しき木がある。幹の太さは約30cm 樹高は移植の際に高さ2.5mあたりで切断されたが、その周辺からの枝が伸びて毎年晩秋に植木職人が饅頭形に剪定、春の季節には薄桃色の花が丸い傘の様に樹を覆い、目を楽しませてくれる。実は大きいのでアンズと梅の交



我が家の庭の梅もどきの満開の花

雑種と思われる。ある年、近所の老婦人がその実を梅干しにしてくれた事がある。南高梅並みの大きく柔らかな梅干しだった。だが、やはり味は比較にならなかった。

梅に関わる物として家紋がある。梅の花、梅鉢、加賀梅鉢、裏梅、梅鶴など多く、丸に梅鉢が我が家の家紋である。父方(旧岩代町)、母方(保原町、旧姓菅原)とも同じ丸に梅鉢の家紋で、これは双方に「菅」があり、有名な梅の天神様菅原道真にあやかっただけかと思うのは穿ち過ぎか。母の実家は元料亭で屋号が「梅ヶ枝」で、何かしら梅に関りがあると感じている。

それにしても新型コロナ発生から丸3年、ロシアが始めたウクライナ侵攻は見通しが立たず、物価高に見舞われている2023年。梅の花の爽やかな香りが満ちる頃には、何とか希望抱かせて欲しいと願うのは私ばかりではないであろう。  
菅野輝栄(会員)

## 私のフランス語日記 *Mon journal en français*

### Plaisir de dictionnaire Plaisir de mot

Pour apprendre une langue étrangère, les dictionnaires sont indispensables.

Depuis que j'ai commencé à apprendre l'anglais au collège, je me demande combien d'aide des dictionnaires de langue étrangère je recevrais.

En consultant le dictionnaire, je m'émerveille de combien de personne et temps il a fallu pour le créer.

Certaines personnes ont dit que les dictionnaires doivent être lus et non consultés, et ils ont raison.

Quand je recherche un mot et découvre ce qu'il signifie, c'est souvent suffisant, mais les dictionnaires ont de nombreux exemples. Il y a des exemples et des phrases qui permettent des découvertes inattendues.

Quand je trouve quelque chose qui a le même sens qu'un proverbe japonais, je me tape sur la cuisse, et je prends des notes.

D'un autre côté, si on dit quelque chose comme ça au Japon, je cherche l'équivalent en français.

En conséquence, le nombre de mémos ne cesse d'augmenter.

Il existe un livre intitulé « Proverbes aimés par Docteur » (édité par Yasushi Takahashi et Osamu Takahashi). " Proverbes contrastés au Japon, en France et en Anglais. La théorie culturelle comparée d'Iroha Karuta " est intéressant.

(Pause-Café)

Les mots français, composés de lettres, sont de court à long. Je me demande quel est le mot le plus long. Je l'ai cherché dans le dictionnaire et j'ai trouvé qu'il avait 19 lettres. C'est [invraisemblablement].

Si quelqu'un connaît un mot plus long que celui-ci, s'il vous plaît, faites -le moi savoir. J'en serais heureux.

De nos jours, les smartphones ont une fonction de traduction, et j'essaie parfois de l'utiliser.

C'est rassurant d'avoir des aides plus puissantes pour les apprenants de langues étrangères.

Un jour, j'aimerais organiser ma collection de proverbes et créer mon dictionnaire de proverbes japonais-français.

Mes proverbes préférés sont, par exemple,

○ C'est en forgeant qu'on devient forgeron.  
(Un homme forge le fer et devient forgeron.)

Narau yori nareyo

○ Les petits ruisseaux font les grandes rivières.  
(Les ruisseaux se rejoignent pour former une rivière.)

Chiri mo tumoreba yama to naru

○ Mieux vaut prévenir que guérir.  
(Canne pour éviter de tomber.)

Korobanu saki no tsue

Toshio SATO



今年の干支うさぎ (うさぎ座)

### 辞書の愉しみ 言葉の愉しみ

外国語を学習するためには、辞書は欠くべからざるものである。

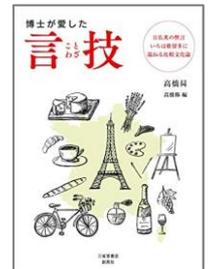
中学校で英語を習い始めて以来、どれ程外国語の辞書にお世話になったことであろう。

辞書はひくものではなく読むものだと言った人がいるが、正にその通りだ。

単語を調べてその意味がわかればそれで良しとすることが多いが、辞書には多くの活用例や例文が載っていて思わぬ発見をすることがある。

日本のことわざと意味が同じものを見つけた時は、はたと膝をうつことがあり、メモに書き留める。反対に、日本ではこう言う場合、フランス語では何と言うのか逆に調べることもある。そんなことでメモはどんどん増えていく。

「博士が愛した言技(ことわざ)」(高橋昇、高橋修編)という本がある。「日・仏・英ことわざ対比 いろは歌留多に温める比較文化論」は面白い。



(コーヒータイム)

フランス語の単語は、文字が短いものから長いものまである。一番長い単語は何だろうと思ひ、辞書をひいてみると「invraisemblablement」、なんと19文字から構成されている。もし、これより長い単語を知っている方がおられましたら、ご教示いただければ幸いです。

辞書を読んでいて、これをつくるためにはどれ程のひと時間が費やされているのだろうかと思うと驚嘆せずにはいられない。今ではスマートフォンに翻訳機能がついていて、しばしばそれを使ってみる。語学学習者にとって強力な助っ人が増えたのは心強い。

いつか、集めたことわざのメモを整理して、自分なりの日仏ことわざ辞典をつくりたいと思っている。

私が好きなことわざは、たとえば、

○習うより慣れよ(日)

人は鉄を鍛えて鍛冶屋になる(仏)

○ちりも積もれば山となる(日)

小川が集まって川になる(仏)

○転ばぬ先の杖(日)

予防は治療に勝る(仏)

(フランス語会話教室受講生 佐藤敏雄)

次回は、林千鶴雄さんお願いします!

## 5年前のVichy（フランス中部）ホームステイの思い出

2017年8月、CAVILAM(Alliance Française)の2週間の教員養成コースを受講するためフランス中部Vichyに滞在しました。ステイ先は学校がとってくれました。久しぶりのホームステイです。

初日はマダムがVichy駅まで迎えに来てくれました。60代前半くらいの一人暮らし(+猫一匹)の方で、最初は笑顔がなくちょっと冷たいかな?と感じました。アパートマンに着いたら、フランス人は新しく訪問した人にはよくする各部屋の(マダムの寝室以外)案内をしてくれました。私の部屋は、独立した息子さんが使っていた部屋でした。朝は一人でコーヒーを入れタルティーヌ(バゲットにバターとジャムを塗ったもの)を食べて学校に出かけます。

1日目はクラス分けがあり、私が登録したクラスは教師を対象としたものの文法をやり直すクラスだったため、教授法を勉強したかった私は教員用教授法講座のクラスに変えてもらいました。ドキュメントを使ったり、歌やゲームを使ったり、パソコンを使った授業など、さすが教員養成講座に定評のあるCAVILAMの先生方、素晴らしい教授法を伝授していただきました。

クラスにはフランス、ドイツ、スイス、スペイン、イラン、イラク、チュニジア、スウェーデン、インド...など様々な国の人がいましたが、北朝鮮の方がいらしたのにはちょっと驚きました。最初は硬い表情だったのにだんだん笑顔も出てきて馴染んできたと思った頃、何か本国であったのか挨拶もできずに急に国に帰ってしまったのが残念でした。

学校主催のリーズナブルな金額で参加できるアクティビティもたくさんあり、Clermont-Ferrandへの遠足やワインの飲み比べ、チーズの食べ比べなどを楽しみました。

クラスメイトとは仲良しになり、美味しいレストランがあると聞いて食べに行ったり温泉の街Vichyならではのスパに入りに行ったり(高かったので一番安いプールと足湯)川辺でペタンクをやったりしました。クラスメイトで車に乗り合わせて近くのCharrouxという古いロマネスク・ゴシック教会と古い家並みのある可愛い町に行きそぞろ歩いたことはとてもいい思い出です。



教会を背にクラスメイトとくつろぐ

Vichyは小さな街で歩いて回れます。何か所か冷たい温泉水が湧き出ているところがあり、皆さんペットボトルなどに汲んでいきます。私も何度か飲んでみましたが、微炭酸の硬水でちょっと飲みにくかったです。

有名なお菓子はミント味のタブレット(Pastilles de Vichy)で、温泉の成分が入っているそうです。青いチェック柄の缶が可愛く、お土産に買う人がたくさんいました。

Vichyといえば、かつてヴィシー政権の首都だったというイメージが私にはありましたが、街中のどこにもその痕跡は見られませんでした。また、住民の方にその話を聞くことは全くなかったので、触れたくない歴史となっているのかな、と少し思いました。

ステイ先の夕食はサラダと一品、そしてデザートにヨーグルトなど、シンプルなものでしたが美味しかったです。マダムと色々な話をしながらの夕食は楽しいひと時でした。

一度和食を作ってふるまいました。ちらし寿司と肉ジャガとお味噌汁。マダムのお友達を招いての和食パーティになりました。食後は箸置きに使った折り紙の鶴を折りたいというので折り紙教室になりました。そのお友達は絵を描いていて今度展覧会をするというのでマダムと一緒に見にいきました。抽象的でしたが元気がもらえる素敵な絵でした。帰りに見た夕焼けがあまりに美しく滞在の終盤に少し感傷的になりました。



ホームパーティ後皆で折った折鶴5羽

マダムはそのお友達を含めて同年代女性のお友達グループを持っていらして(マダムを初め皆さんシングル)、最終日に一緒にバーに飲みに行きました。日本文化にとっても興味があるお友達に浮世絵のことなど色々聞かれ、私の少ない知識と考えでお話をしてきました。皆さんしっかり自分の考えやライフスタイルを持った素敵な方達でした。

最終日、マダムが駅まで見送りに来てくれて、お土産にと紫のタオルハンカチをくれました。「彩子は長いこと顔を洗っていたでしょ。中国人の学生もそうだった。顔を拭くのに使って」と。プレゼントがとても嬉しかったものの、水道代が高く水を非常に儉約するフランス人の家では極力顔も短時間で洗うべきだったと反省しました。

マダムと同じ年代ならではのおしゃべりは楽しく、この歳でのホームステイも悪くないと思いました。クラスメイト達とは今も連絡を取り合い、コロナ禍での授業の情報など交換しあっています。Vichyも綺麗で治安も良くよい街でしたし短期間でしたが貴重な経験でした。

清田彩子（元会員）

## 七十八年生きて、私の日常

私は山寺の娘として生まれ、小さい時から大自然の中で育ってきました。母と子供たちは百人一首で、父たちは囲碁、将棋、麻雀を、休みの日やお正月は遊び放題で過ごし、今、七十八歳になって、子供の頃の生活経験と環境がいかに大切かという事がわかりました。

また、二十歳でお茶とお花の教授になり、結婚しても続けることを条件にした程です。厳しい士族出の姑の下でも、お茶の精神の「相手を思いやる」「目上の人を敬う」という教えがあってこそ、笑いの絶えない円満な家庭生活を過ごしてこられたと思っています。平成から令和となり三十数年を数えますが、お嫁さん世代に伝えたいのは少し自我を抑えて、お年寄り、目上の人を大切に敬ってほしいと思うのは私だけでなく同世代の方々も同じ思いです。もっと人を愛し、自分磨きにも努めてほしい、忍耐も必要です。

六十代で両足が人口股関節になり、歩くことは出来てもゴルフや走ることが出来なくなりました。もう何も出来ないと思っていましたが、バウンドテニスクラブに入会し、十余年ボールを追いかけています。何事にも前向きに愚痴を言わずに全てのことに我慢して元気に過ごしていきたいと思っています。

茶道は表千家で、小学生二十数名向けに月2回お茶会を開き、お茶のいただき方、お菓子のいただき方、畳の上の歩き方々々教えておりました。初釜は2月に、桜の咲くころは希望の森公園での野点で百二十人程のお客様をおもてなししておりました。華道は池の坊で東京「池の坊お茶の水学園」で学び、高島屋の花展に出展したり、京都六角堂での献花をし、芸術祭にも参加しました。華道のお稽古は週1回二十数名のお弟子達が研鑽しておりました。自然を大切にする心も芽生えておりました。日本の伝統文化を若い人に受け継いでもらいたいと思っています。



梁川町希望の森公園での野点

また、高校生の時から母について俳句を学び、四十代で俳誌「ホトトギス」の同人、俳誌「藍悠」の同人になり、現在は「福島県ホトトギス会」の会長を務めております。歳をとって一番勉強になるのは俳句かもしれません。紙とペンさえあれば何時間でも過ごせますし、頭も使います。ボケ防止にもなり、自然をよく観察する力もついてきます。

「冬晴れや 宇宙の青を 摺り込みて」 若菜 (自作)



福島県ホトトギス会同人の方々と「横手市かまくら祭り」吟行会



バウンドテニス

第30回すこやか福島ねりんピックに参加

これからも、先に述べた運動(バウンドテニス)も含めて文武両道で生きていきたいと思っています。高齢者スポーツの祭典「第30回すこやか福島ねりんピック」が、昨年5月18、19日両日に郡山市などで3年振り(2大会連続中止)に開催されました。福島県老人クラブ連合会や同社会福祉協議会等の主催です。全21種目の優績者は「ねりんピックかながわ2022」全国健康福祉祭に代表者として出場出来る、高齢者にとって気合が入り参加すると楽しい大会です。気力、体力のある皆さんも今年度2023年の福島県大会に参加されてはいかがでしょうか。私は、福島ねりんピック総合開会式で女性代表で宣誓した後、バウンドテニス競技に参加して身体を動かして、親睦を深めました。

譽田葉子(会員 梁川バウンドテニスクラブ会長)